

第2回埼玉県観光づくり基本計画検討委員会（メモ：主な意見）

－ 平成24年7月23日（月）開催 －

- 1 埼玉県の観光計画は、他の県とは違うことを打ち出した方がよい。ごく一部の地域しか観光客が訪れていない県としてどうするか、他県とは違った視点でもう少しはっきり謳った方がよい。
- 2 埼玉県の観光が5年後、今とどう変わるのか、どのような形を目指すのか文言にした方がよい。現状に対して将来どう変わるのか、余暇活動を豊かにし、県内交流、県民の観光行動がどうなるのか、数字以外でも方針として入れてもらいたい。
- 3 埼玉の観光は、圧倒的に日帰り旅行にフィーチャーされている。日帰りの客が増えれば、宿泊客も増える。暴論かも知れないが、日帰り観光日本一を目指す。デイトリップの埼玉みたいな流れを作っていくのもよいのではないか。それを大きな目標にしてもよい。
- 4 リピート客を増やすには、県民の愛県心47位をアップする必要がある。自分の所へ来てくれたお客さんには喜んで帰ってもらえる。皆がコンシェルジュになった気持ちでお客様を迎えることが大切である。おもてなし力で、埼玉県大好き人間になってもらうことが必要である。
- 5 地元の人が地元のことをよく知り、地元を愛することから始めなければ、おもてなし力の低下は避けられない。小学校の頃から、自分のまちで何が面白いのかうえつける。
例えば、全市町村に見どころを3か所選んでもらう。そして、小学校では写生、作文を作る。清掃活動もやってもらってはどうか。
- 6 おもてなし力が自然に出てくるためには、奥深い長期的な戦略が必要である。教育委員会の協力ができない取組である。
地域の愛着心や誇り、シビック・プライドと言われているようなものを持つことが必要であることを、こちらが教育委員会に提案し、副読本に入れてもらうなどしてはどうか。今は、まちづくり教育などが結構行われていて、教科書の副読本に載せられている。

7 草津の旅館などに行くと、おもてなし力の違いを感じる。商工会議所と連携して、そろばん、英検に加え、おもてなし検定をやることなどを考えてはどうか。

8 計画案にある施策を28年度までに成し遂げられるのか。できることからやっていけばよいのではないか。農商工の連携などからやったらどうか。予算の関係もあるし、計画案に書かれたすべての施策に取り組むのは難しいのではないか。